

(別紙 2 - 1)

令和 6 年 4 月 26 日

二本松市議会議長 様

会 派 名 みらいの風

代表者名 鈴木一弘



## 視察・研修報告書

当会派において、下記により視察（研修）を（に）実施（参加）しましたので報告いたします。

記

1 期 間 令和 6 年 3 月 26 日（火）～ 3 月 28 日（木）

2 参加者 ① 鈴木一弘 ② 佐藤源市

③ 斎藤 徹 ④ 佐藤運喜

⑤ 武藤清志 ⑥

3 視察（開催）地及び視察（研修）内容

別紙のとおり



(別紙 2 - 2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派           みらいの風          

氏 名           鈴木 一弘          

○ 月 日           令和 6 年 3 月 26 日 (～ 28 日)          

○ 場 所           岐阜県関ヶ原町          

○ 内 容           岐阜県と関ヶ原町との取り組み          

          「関ヶ原古戦場グランドデザイン」          

○ 視察・研修の感想

岐阜関ヶ原古戦場記念館については、県営の施設であり規模的には、当市の  
城報館とは大きく違いがある。(総工費約 57 億)「見る、聞く、体感する」  
駅を降りたところから記念館まで、説明看板等で街の雰囲気作りが出来ていた  
説明看板も良く拝見したかったが、当日は暴風雨でよく見れなかったのが残念  
であったが、その分個人的にもまた来てみたいと思わせる雰囲気があった。  
地域振興課の説明であったが、説明者は「古戦場グランドデザイン推進室長、  
グランドデザイン推進室整備係長」の専門員である。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

関ヶ原古戦場は、平成 19 年より例年 10 万人程度の来訪者があったが、施設  
整備後の令和 4 年は 26 万人、令和 5 年は 37 万 2 千人と跳ね上がっている。  
大河ドラマ「どうする家康」(関ヶ原の闘い)の放送回には前年対比 215%の  
伸びとなっている。改めてメディアの力を思い知るが、施設で大きな伸びを、  
得ることが出来る。

当日は、暴風雨の中でも来客がいたのには驚きであるが、施設では食事も出来  
て、グッズや県内の特産品などの商品開発や販売も行われている。

関係施設は全て整備され、各軍の陣地までもが整備され旗指物などで装飾され  
ていた。本市でも参考としたい。

城などではなく、戦場となった場所で交流人口は大きく増やせるのである。

(別紙2-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派           みらいの風            
氏 名           鈴木 一弘          

○ 月 日           令和6年3月26日(～28日)          

○ 場 所           静岡県浜松市          

○ 内 容           エネルギー政策について            
          脱炭素社会の実現に向けた浜松市の取り組みについて          

○ 視察・研修の感想

          取り組み方が本気度の度合いが違う。6年前に委員会で視察をしたが、大きく内容は変化していた。          

          計画し着手してからは確実に進められなければ、ただの無駄遣いになってしまう大いに見習いたいものである。          

          本市のゴチカンはどうなってしまったのか？気になるところである          

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

          ※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。          

          太陽光パネルの設置は養鰻場跡などを中心に平場を主体として進められ、山間部については災害等を考慮し設置はされない。          

          今度は、各住宅の屋根の上を主体的に進めていきますという事であった。          

          補助金等についても、市民対象、企業対象と豊富にあり、以前の視察では太陽光設備の補助が主体であったが、今は蓄電池の補助が主体となっている。          

          環境省や農林水産省の事業の採択を受けるなど、補助金の取得も実にうまく利用して、二酸化炭素吸収減の確保まで推進されている。          

          冒頭、推進局長のあいさつの中で、本気で取り組むのには総務、市民部などで、担当しているようでは、うまく進まない、産業部で担当すべきという事であった参考とするところは大きいと考える

(別紙 2 - 2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派           みらいの風            
氏 名           鈴木 一弘          

○ 月 日           令和 6 年 3 月 26 日 (～ 28 日)          

○ 場 所           環境省          

○ 内 容           国立公園におけるゼロカーボンパーク推進と登山道整備            
          福島復興への今後の取り組みと中間貯蔵施設の状況          

○ 視察・研修の感想

          地域の要望等も踏まえ本市にある国立公園内にある登山道の整備等について            
          新たな施策等の有無について、確認と説明を受けようと考え訪問した。            
          各担当者の説明を受け、福島市ではすでに取り組み実施している等もあり、            
          本市でも取り組みの必要性を感じるものもあり、大変有意義であった          

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

          国立公園満喫プロジェクトについては、13 公園で具体的に進められている。            
          磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクトが進められているが、            
          令和 4 年 3 月にステップアップ 2025 が策定されている。            
          本市では、岳観光協会などが安達太良山の登山道の一環整備など希望されている            
          様だが、重点的な取り組みの中に「安全で魅力的な登山道の整備・維持管理」が            
          盛り込まれているので、必要性についても話しを進めてみたいと思う。            
          内容をよく確認の上、本市でも実施できればと考える。            
          新たに、国立公園におけるゼロカーボンパーク推進があるが福島市で土湯温泉、            
          高湯温泉で取り組みを始めているとのことであったので、本市についても検討し            
          てみてはどうかと思う。

視察・研修報告書

会派 みらいの風

氏名 佐藤 源市

○ 月 日 令和6年 3月 26日 (~28日)

○ 場 所 岐阜県 関ヶ原町

○ 内 容 岐阜県と関ヶ原町との取り組み  
・関ヶ原古戦場のグランドデザイン

○ 視察・研修の感想

関ヶ原古戦場は日本一有名な戦場であり、グランドデザインのターゲットは、①歴史列への史跡や戦地の保全環境強化シロポーターの拡大、②旅行プランへの含めり、説明景観、名所、土産などの「歴史」として、テーマパークの拡大、③教育旅行への対応、歴史文化の知識習得としてのエリアとして施設ターゲットの拡大である。この地域施設は豊富であり、環境の整備は町が行っている。令和5年新築は37214坪であり、県の博物館及び町の博物館が紹介されている。東宮地産物産販売と徹底に県と町が「地域環境、経済を造り出す」という、さらし、取り組みができた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

関ヶ原町と県の地域歴史文化を共有し観光誘客を促進している。事業整備に当たっては、国県補助事業も有効に活用されており、特に古戦場の復元のための電柱の無柱化の促進又は元の自然環境への対策されている。

各市においては、国県との連携的有事業推進を図ることで、維持管理への削減の取り組みが17号であると考える。

視察・研修報告書

会派 みらいの風  
氏名 佐藤 源市

○ 月 日 令和6年3月26日(～28日)

○ 場 所 静岡県浜松市

○ 内 容 エネルギー政策について  
脱炭素社会の実現に向けた浜松市の取組について

○ 視察・研修の感想

浜松市は温室効果ガス排出基準年度を2012年度で設定し、排出量は5743.6千t-CO<sub>2</sub>であり、2020年度には事業実施効果は19.1%削減の4646.5千t-CO<sub>2</sub>であり、地球温暖化対策実行計画①徹底して省エネの推進②再生可能エネルギーの最大限の導入③新技術、イノベーションの推進④二酸化炭素吸収源の確保であり、各削減目標を設定している市として企業の脱炭素の後押しとして官民協賛が突出している。又、市の6年度の脱炭素関連事業として各分野へ官民一体として取り組まれている。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

浜松市人口80万人、面積1158km<sup>2</sup>、南に浜松湾と太平洋の間に位置し国土強国型都市であり、脱炭素への取組については、市が積極的取組を推進している結果、脱炭素削減への大きな効果が表れている。市においては再生可能エネルギーへの普及活動への取組と併せて各分野を設定し、地域との調和を図り、再生エネルギーへの導入を推進を促すと見られる。又、二酸化炭素吸収源の確保のための山林の整備、B級・準B級木材の活用促進、木質バイオマス、炭素ボリラー、同様の燃料の生産、化石燃料の使用量削減、木材の輸送が重要であること、地域固有の資源と活用することが必要であり、本市に於いては、一層推進を図るべきである。

視察・研修報告書

会派 あさひの風  
氏名 佐藤 源市

○ 月 日 令和6年3月26日(28日)

○ 場 所 環境省

○ 内 容 ① 国立公園における、ゼロカーボンパーク推進と登山道整備  
② 福島復興への今後の取り組みと中間貯蔵施設の状況

○ 視察・研修の感想

- ① 国立公園の脱炭素化目指すとともに、脱プラスチックも含めてプラスチックを資源地獄にも実現していくエリアと見えてくる。登山道整備は、自然環境整備交付金等に活用し、施設整備に取組んで行く必要がある。
- ② 令和6年度の中間貯蔵施設稼働における再生利用は、除去土壌等の減容。再生利用に向け、南保持肉との連携の下実証実験を実施。現在中間貯蔵施設への累積輸送量は1376万tであり8000Bq/kg以下が75%である。今後最終処分へと2年後までに処理していく見込みである。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

① 国立公園等の交付金事業の対象地域は福島を含まれており、自然歩道・施設整備へ環境省自然環境局整備へ積極的に働き掛けることが必要と思われる。

② 中間貯蔵施設内には、8000Bq/kg以下が75%の除去土壌があり、北茨城において有効的に活用し道路網整備へ貢献の切実と思われる。

# 行政視察報告書

委員名 齋藤 徹

○ 視察日 令和 6 年 3 月 26 日

○ 視察先 岐阜県 関ヶ原町

○ 視察内容 岐阜県と関ヶ原町との取り組み

「関ヶ原古戦場ランドデザイン」

○ 視察の感想

人口約6000人の町で、関ヶ原の戦いのブランド力を活用し入込客の増加を県と共同で行っている。駅を降りると関ヶ原駅前観光記念館があり、Wi-Fiやレンタサイクル等が整備され関ヶ原古戦場や関ヶ原古戦場記念館の観光の起点となっている。史跡・おみやげ・飲食等のPR素材が多数ありQRコードを利用し観光客に細やかな対応がなされている。関ヶ原ランドデザインは、地域振興課が担当し、県施設の関ヶ原古戦場記念館に町から出向者を派遣し県とのパイプ役となっている。大規模な事業は県が行い、町は独自で出来る細やかな整備に力を入れていると感じた。

○ 視察の成果、市政への反映等

現代に合わせた史跡の整備を毎年行っており観光史跡としての価値を高めている。本市においても少しずつ行っていく必要がある。

昨年、NHK大河ドラマとタイアップし、ピークの平成27年101万人に迫る令和5年92万人の入込客であり、地元企業によるNHKロゴを使った商品開発も行われた。本市市民の声にも二本松少年隊のドラマ化があるが、実現できれば一定の効果は期待できる。

ウォーキングマップやサイクリングマップ等、再訪したいと思わせる仕組みづくりがある。本市においても、入込客増加の施策を継続的に行っていく必要がある。

市城報館においては、市内他施設との関わりを強化し市内の滞在時間を延ばしていく必要がある。

# 行政視察報告書

委員名 齋藤 徹

○ 視察日 令和 6 年 3 月 27 日

○ 視察先 静岡県 浜松市

○ 視察内容 エネルギー政策について  
脱炭素社会の実現に向けた浜松市の取り組みについて

○ 視察の感想

人口の推移は平成26年度の約81万人から令和5年度79万人で人口減少に歯止めをかけている市である。政令指定都市の中で幸福度ランキング1位であり厚生労働省が発表する健康長寿ランキングでは、3度にわたり1位を獲得している。また、太陽光発電導入件数及び導入量ともに1位である。

農業産出額の3位は菊であり好感がもてる。

○ 視察の成果、市政への反映等

太陽光発電1位の市であるが、大きな要因はうなぎの養鰻場が自然から施設に移り変わり土地が余っていたことに加え全国3位の日照時間である。本市においても時代に即した土地の利用や植え付け作物等検討が必要である。

温室効果ガスの排出割合は、産業部門20.6%・業務その他21.4%・家庭部門20.4%・運輸部門が26.4%である。国全体と比べて産業部門が少なく運輸部門が多いのは、産業部門の排出削減に力を入れており、運輸部門については市内にスズキやヤマハがあり自動車保有率が高い為である。本市においては、国の基準に準じているが、各部門を調査し排出量の多い部門に対して対策が必要である。

浜松電力は、市内太陽光発電所と清掃工場から電気を調達して公共施設や民間需要家に供給している。本市のご当地電力においても有効な利用方法を再検討する必要がある。

エネルギーの時給自足に対応するスマートハウスに補助をする施策が必要である。

# 行政視察報告書

委員名 齋藤 徹

○ 視察日 令和 6 年 3 月 28 日

○ 視察先 環境省

○ 視察内容 国立公園におけるゼロカーボンパーク推進と登山道整備  
福島復興への今後の取り組みと中間貯蔵施設の状況

○ 視察の感想

地球温暖化による影響への取り組みを環境省と共に取り組んでいる自治体があり、安達太良連邦を含む磐梯朝日国立公園でも同じような取り組みができないかと考え訪問した。また中間貯蔵施設の状況の説明もあり充実した視察となった。

○ 視察の成果、市政への反映等

自然公園法による交付金は、事業計画作成主体が県になるので市としては県との協議が必要であり限度額が2分の1である為、残りの2分の1を捻出する必要があるが、公園施設の長寿命化や登山道の計画的な整備には必要である。

国立公園におけるゼロカーボンパークの推進は、現在16市が行っていて地域循環共生圏づくりをめざしている。本市においても、二本松市の豊かな自然を残していく為にゼロカーボンパークに登録する必要がある。

磐梯朝日国立公園、磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト2025においては、コンセプトが『宝の山々と虹色の瞳、見上げれば「ほんとの空」』となっており、安達太良山についても位置づけが大きいと考える。積極的に関わっていく必要がある。

飯館村における環境再生事業について説明をいただいた。本市に残っている輸送困難な除去土壌（既に建築物ある等）に関しては、注視していく必要がある。

(別紙 2 - 2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風

氏 名 佐藤 運喜

○ 月 日 令和 6 年 3 月 26 日

○ 場 所 岐阜県関ヶ原町

○ 内 容 岐阜県 関ヶ原町の取り組み  
「関ヶ原古戦場グランドデザイン」について

○ 視察・研修の感想

関ヶ原町役場大会議室にて、地域振興課 古戦場グランドデザイン推進室長赤座様、同課長補佐係長の富田様より午後1時より説明を受けた。質疑応答の後見学として「岐阜関ヶ原古戦場記念館」を研修させていただいた。

結論から言えば、県と町の取り組み、連携が素晴らしく推進体制は2014年からここ10年間の各史跡や交流館の整備、ハード面の整備を抜本的に進め、近年ではイベント等ソフト事業、特に大河ドラマ「どうする家康」2022～放映を踏まえた各種取り組みは、インバウンド事業や住民と行政との協働という面では大いに参考にすべき研修となった。長い歴史にある町のグランドデザインを掘りおこし、強力な国の助成、県と町の取り組みによって現在に至っていると思われる。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

関ヶ原町の旅行者動向では過去10年間で、年間平均100万人目標としてほぼ達成されているが、関ヶ原古戦場来訪者の割合が、NHK大河ドラマを契機に3割、4割にまで達したことなど県営の施設の充実、町内での活性化が鍵となり改めてTVメディアの影響力を感じてきた。本市でもかつて40万人の来訪者を誇った菊人形のブランド力、イメージ、課題を掘り起こし観光都市としてのグランドデザインの再構築を図る必要性を強く感じてきた。来訪者の増と市の活性化をどうするかを今すぐ取り組み、行動に移すべきである。

(別紙 2 - 2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風

氏 名 佐藤 運喜

○ 月 日 令和 6 年 3 月 27 日 ( ~ 28 日 )

○ 場 所 静岡県浜松市

○ 内 容 エネルギー施策について  
脱炭素社会の実現に向けた浜松市の取り組みについて

○ 視察・研修の感想

2 日目 (27 日) の午後、市役所にて研修した。人口 79 万人市の歳入規模で 3,593 億円超の大きな政令指定都市の中で、特に再生可能エネルギー 853899 K W、41,404 件とダントツの再エネ導入率を誇っております。そのポテンシャルは 5 つで、日照時間、森林面積、河川用水、遠州空っ風、大都市からの食品残渣により最大限の導入推進をはかっている。浜松市地球温暖化対策実行計画における 2030 年度温室効果ガス排出削減目標は 2013 年度対比 52%とした。2020 年までに既に 19.1%削減され、国の計画目標 46%を達成目途に取り組み挑戦中であるとのこと。規模、スケールの違いに驚愕と同時に、脱炭素社会に向けた取り組みの必要性を再認識させられた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて 4 つの基本施策を掲げ推進していた。徹底した省エネ推進、再生可能エネルギーの最大限の導入、新技術・イノベーションの推進、二酸化炭素吸収の確保の 4 つである。これらの推進のための取り組みは、認定制度、条例改正、太陽光発電の導入、新電力株式会社の設立、E V 導入支援事業 生ごみバイオマス発電プロジェクト各種を農水省・環境省の補助金等を利用して取り組んでいる。水素利活用も検討視野に、C O 2 の吸収源の確保、バイオマス発電とともに脱炭素関連事業に予算化を強化する。取り組む担当部署が重要です。本市においても企業や基金、関連事業をどう転がすか、参考されたい。

(別紙2-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派           みらいの風          

氏 名           佐藤 運喜          

○ 月 日           令和6 年 3 月 28 日          

○ 場 所           環境省          

○ 内 容           国立公園におけるゼロカーボンパーク推進と登山道整備            
          ふくしま復興への今後の取り組みと中間貯蔵施設の状況          

### ○ 視察・研修の感想

国立公園におけるゼロカーボンパーク推進については、各地域の要望等踏まえ  
国において自治体の手あげ方式で既に福島市の土湯、高湯地区は取り組んでいる。

国立公園に接する本市においてもゼロカーボンパークの取り組み対象となるか、  
登録自治体としてパッケージ支援、地方環境事務所の伴走を受けて交流人口増を  
図る為の意義ある研修となった。

再生福島における「中間貯蔵施設事業の状況等について」事例として2024年3  
月現在の施設概要、再生利用事業概要の開発戦略の説明を受けた。特に発生した除  
去土壌は中間貯蔵開始後30年以内に県外で最終処分を完了する為の必要な措置に  
ついて2025年以降に最終処分に係る調査・検討調整を進めるとの説明であった。

### ○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

ゼロカーボンパークとは脱炭素化、脱プラスチックを含めサステナブル（持続  
可能）な観光地づくりの実現エリアの拡大であり、再生可能エネルギーの活用、  
地産地消等その魅力を国内外に発信することが大切です。全国の登録状況  
としては、15号（件）うち12番目が福島市磐梯朝日国立公園（土湯温泉・  
高湯温泉）であり2025年までに吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクトが組まれて  
いる。本市でも環境省の自然公園等整備事業に沿って実施できればと思った。

また中間貯蔵施設事業のこれからの推移については、減容化・再利用技術開発  
戦略等々今後30年間注視しつつ広報、理解、普及活動を担っていきたい。

(別紙 2 - 2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風

氏 名 武 藤 清 志

○ 月 日 令和 6 年 3 月 2 6 日

○ 場 所 岐阜県関ヶ原町

○ 内 容 ・岐阜県と関ヶ原町との取り組み

・「関ヶ原古戦場グランドデザイン」

### ○ 視察・研修の感想

関ヶ原町は日本の歴史上、天下分け目の戦いと言われた「関ヶ原の戦い」が繰り  
広げられた場所として有名である。「関ヶ原古戦場グランドデザイン」は岐阜県との連  
携を図りながら、関ヶ原の知名度やブランド力を活かし、地域活性化と歴史遺産の継承  
を図るため、ハード・ソフト両面における具体的な取り組みをまとめられたもので、古  
戦場の整備・活用の指針となるものとのことであった。(2015年3月策定)

一方「関ヶ原古戦場記念館」は岐阜県が2020年、関ヶ原の戦いの全容が分かりやす  
く最新技術を結集し、徳川家康最後の陣地に隣接して建てられた。全国に及んだ戦い  
を俯瞰するグラウンド・ビジョン、大迫力のシアター映像、貴重な収蔵コレクション  
など、歴史を現代に伝えるに十分な施設構成であると感じられた。

NHK大河ドラマ「どうする家康」の効果については、令和5年11月に放送開始後  
観光入込客数が前年度比で2倍超となるなど、ドラマの反響は大きかったとのことであ  
る。また土産品開発等にもつながり、経済効果もあったとのことである。

人口約6,000人、町の年間予算約40億円規模であり県との連携を図りつつ、史実を  
活かした自治体運営をしていることが理解できた。

### ○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

日本史における重要な古戦場としてあまりにも有名な関ヶ原町から、本市の歴史へ  
繋がる霞ヶ城を有することを再認識できた。同時に本市運営におけるグローバルな視点  
がより必要であると感じた。人は石垣、人は城そのものである。

(別紙 2 - 2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風  
氏 名 武 藤 清 志

○ 月 日 令和 6 年 3 月 2 7 日

○ 場 所 静岡県浜松市

○ 内 容 ・エネルギー政策について  
・脱炭素社会の実現に向けた浜松市の取り組みについて

### ○ 視察・研修の感想

浜松市は静岡県の西部に位置し、人口約 80 万人を有する政令指定都市である。平成 17 年近隣 12 市町村と合併し面積は 1,558 平方 km となり、全国 2 位の市域面積となった。気象庁の日照時間調査において全国 1 位となったこともあり、日照時間が長い土地柄である。市域の 7 割は中山間地で木材生産（天竜杉）も盛んで東京オリンピック開催時の施設建設にも用いられた。原動機付自動車の製造メーカー本社があるため輸出量も全国 1 位であり、楽器製造メーカー本社もあるなど活況が感じられた。

エネルギー政策に関する視察テーマで、脱炭素社会の実現に向けた浜松市の取り組みについて説明を受けた。浜松市は特別組織として市長直轄の 3 事業推進本部設け、機動を高め事業推進のスピードアップを図っているとのことであった。その 1 組織が今回の視察テーマを所管する「カーボンニュートラル推進事業本部」である。

浜松市地球温暖化対策実行計画を推進するため、本部長・副本部長を筆頭に 2 グループと環境省への出向職員 1 名（国の状況分析情報収集）を併せ 13 名体制で取り組んでいる。

### ○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

実際に視察訪問し対面で生の脱炭素社会の実現に向けた先進地の取り組みを伺うことができた。地球規模の人類存亡に関わる課題である以上、本市も具体的な取り組みを避けては通れない。議員として大海を望みながら温室効果ガス削減が重要課題であることを再認識できた。井の中の蛙大海を知らずとならぬよう務めて参りたい。

(別紙2-2)

## 視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 みらいの風

氏 名 武 藤 清 志

○ 月 日 令和6年 3月28日

○ 場 所 環境省

○ 内 容 ・国立公園におけるゼロカーボンパーク推進と登山道整備  
・福島復興への今後の取り組みと中間貯蔵施設の状況

○ 視察・研修の感想

磐梯朝日国立公園に関しては「磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プログラム」が展開されており、ステップアッププログラム2025概要コンセプトとして、『宝の山々と虹色の瞳、見上げれば「ほんとの空』の下、ありたい未来（ビジョン）を  
・いつでも心揺さぶる自然がある ・誰でも心躍る体験がある ・何度でも心惹かれる歴史文化が待っている これからも誰もが自分らしくいられるそんな地域でありたい ために観光庁予算も使い分けしながら関係自治体、団体を交え協議会を設立して取り組んでいることを紹介された。（二本松市も構成団体の一員）  
福島復興への取り組みに関しては、中間貯蔵施設事業の状況等について方針として総論は安全第一に、地域の理解を得ながら、住民帰還や生活に支障を及ぼさないよう事業を実施することや、特定帰還居住区域等で発生した除去土壌等の輸送を進め、仮置場を介さない輸送も実施する、最終処分場の低減に資する除去土壌等の減容・再生利用に向け基準作りや再生利用先の具体化を推進すること等など広範囲に丁寧な説明を受けた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

環境省の裏磐梯現地事務所が安達太良連峰も管理下にあり、本市としては密接な連携を図りつつ国の取組と連動する観光施策を取り組み推進したいと感じた。

除去土壌の再生利用は、戦略的に活用を検討すべきと考える。仮説焼却炉建設に反対勢力がいたことと同様の存在はあるが、福島復興は本市も当事者である。

# 視察行程表

2024/3/26～2024/3/28

|     | 日付   | 種別 | 出発    | 到着    | イベント      | 内容            |
|-----|------|----|-------|-------|-----------|---------------|
| 1日目 | 3/26 | 移動 | 6:08  | 6:31  | 二本松駅～郡山駅  | 東北本線          |
|     |      | 移動 | 6:47  | 8:14  | 郡山駅～東京駅   | やまびこ202号      |
|     |      | 移動 | 8:30  | 10:09 | 東京駅～名古屋駅  | のぞみ17号        |
|     |      | 食事 | 10:30 | 11:30 | 昼食        | JR名古屋駅周辺      |
|     |      | 移動 | 12:00 | 12:32 | 名古屋駅～大垣駅  | 東海道本線快速       |
|     |      | 移動 | 12:41 | 12:55 | 大垣駅～関ヶ原駅  | 東海道本線         |
|     |      | 研修 | 13:00 | 16:00 | 徒歩で関ヶ原町役場 | 役場・記念館で研修     |
|     |      | 移動 | 16:22 | 16:35 | 関ヶ原駅～大垣駅  | 徒歩で関ヶ原駅、東海道本線 |
|     |      | 移動 | 16:41 | 17:14 | 大垣駅～名古屋駅  | 東海道本線快速       |
|     |      | 宿泊 |       | 18:00 | チェックイン    | 名古屋市内宿泊       |
|     |      | 食事 |       | 18:30 | 夕食        | 名古屋市内         |
| 2日目 | 3/27 | 移動 | 10:08 | 10:53 | 名古屋駅～浜松駅  | こだま712号       |
|     |      | 食事 | 11:00 | 12:30 | 昼食        | 浜松市内          |
|     |      | 移動 | 12:30 | 13:00 | 浜松駅～浜松市役所 | 遠鉄バス          |
|     |      | 研修 | 13:00 | 14:30 | 浜松市役所     | 市役所にて研修       |
|     |      | 移動 | 14:30 | 16:00 | 徒歩・チェックイン | 浜松市内宿泊        |
|     |      | 食事 |       | 18:00 | 夕食        | 浜松市内          |
| 3日目 | 3/28 | 移動 | 9:17  | 10:42 | 浜松駅～東京駅   | ひかり640号       |
|     |      | 食事 |       | 12:00 | 昼食        | 東京駅周辺         |
|     |      | 移動 | 12:22 | 12:27 | 東京駅～霞が関駅  | 東京メトロ丸ノ内線     |
|     |      | 研修 | 13:00 | 15:00 | 徒歩で環境省    | 環境省にて研修       |
|     |      | 移動 | 15:29 | 15:33 | 霞が関駅～東京駅  | 東京メトロ丸ノ内線     |
|     |      | 移動 | 16:36 | 17:57 | 東京駅～郡山駅   |               |
|     |      | 移動 | 18:18 | 18:40 | 郡山駅～二本松駅  | 到着後解散         |

## 【宿泊先】

1日目 モンブランホテルラフィネ名古屋駅前 (052-541-1121)

愛知県名古屋市中村区名駅3-13-27

2日目 ダイワロイネットホテル浜松 (053-455-8855)

静岡県浜松市中央区旭町9-1